

# 広報 きょうたなべ

## ◆◆◆◆ 主な記事 ◆◆◆◆

- アルバイト・臨時職員を募集 2面
- 児童手当が大幅に緩和 3面
- 肝がんの予防検診します 4面
- 情報公開の運用状況まとまる 5面
- インドネシアと交流イベント 8面

電話感覚で通話

## 災害時の通信確保へ

# 最新の防災無線を導入

市は、災害時における情報の伝達手段として地域防災無線を導入。5月1日から運用を始めました。通話しにくくなる予想される一般電話回線を使わずに、無線を使うことで市役所と各区・自治会の公民館をはじめ防災関係行政機関との通信を確保。電話と同じように同時通話ができ、さらにその場で撮った映像の送信もできる最新の防災無線です。これにより災害発生時の情報の収集や市民のみなさんへの情報提供が格段に向上することになります。

問合せ先「管財防災課」(☎64・1314)

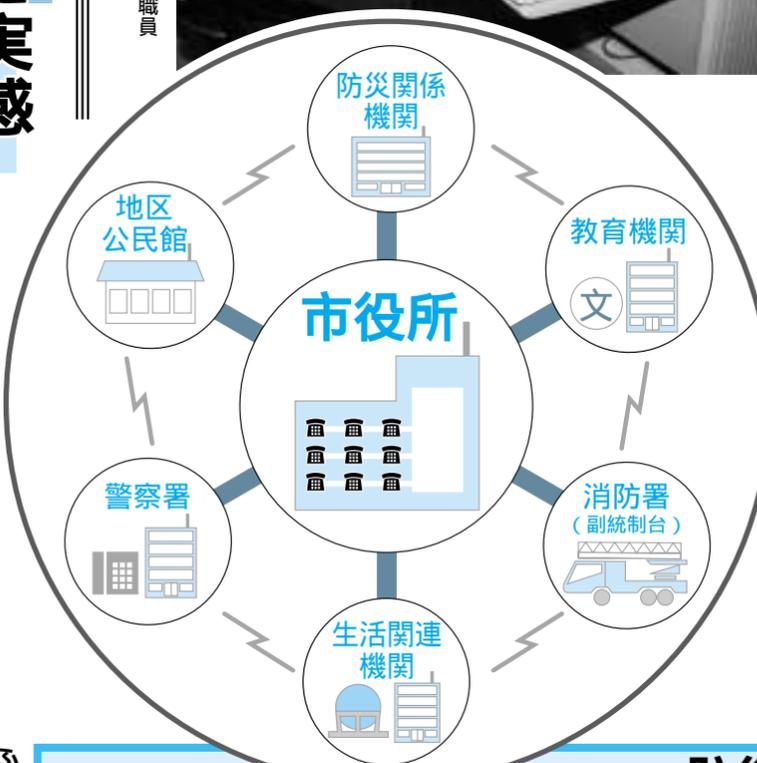


トールペイントを鉢に立てミニガーデニングの仕上げをする参加者(野外活動センター)

防災無線の統制台は市役所 防災関係行政機関や各区・所4階に置き、半固定局を 自治会公民館の67か所に設置しています。また、市公まで伝送できる装置を備え用車のうち28台を緊急通行するほか、市内山間部の天指定車両に指定して車載型 王・高船・打田の3地区に無線機を装備。可搬型や携は、統制局から遠隔操作に帯型などの無線機52台を市より危険を知らせるサイレント各課および出先機関にんと拡声器を設置してあります。

また、デジタルカメラで 工費は約1億5千750万円です。撮影した被災状況を市役所 0万円です。

### 防災無線のイメージ図



### 防災無線の主な特長

- 電話のように通話**  
一周波同時送受信方式を採用することで、電話のように通話ができます。また、市役所の内線電話と接続しており、各無線局との会話もできます。
- 画像も送信**  
音声だけでなくデジタルカメラなどで撮影した静止画を統制局に送ることが可能です。
- 屋外へ拡声放送**  
市役所や消防署から屋外拡声機付きの無線機を使って山間部(天王・打田・高船)の市民のみなさんへ情報を伝えることができます。
- 遠距離の無線機との通信**  
中継局を飯岡地域に設置。遠距離間の通話ができます。
- 関係機関と相互通信**  
防災関係機関や浄水場などの生活関連機関の事業者と相互通信が自由に入ります。
- 多チャンネルで災害時に力を発揮**  
平常時は30チャンネルから空きチャンネルを選び通信。災害時には60チャンネルを確保し、より充実した防災体制を確立します。

## 創る楽しさを実感

### トールペイントなどに挑戦

野外活動センターで4月24日、親のためのチャレンジクラフト教室が開かれ、日ごろ仕事や家事で忙しいお父さん・お母さんら10人が参加。トールペイントを利用したミニガーデニング作りに挑戦しました。トールペイントとは、絵の具を使って木製品や布などに静物画や風景画を描くもの。参加者らは、講師の指導のもと木板にウサギや草木などを描きました。

また、スノーボールなど季節の草花を直径約10mの鉢に植え、思い思いのミニガーデニングにチャレンジ。最後に、トールペイントを鉢に立て「かわいい」と一言。創ることの楽しさを実感していました。

### 紙すきで

## 社会参加と自立を

### ふくろう共働作業所オープン

ふくろう共働作業所運営 リサイクル紙すきや農作業委員会(林恵子運営委員長) 業・草木染めを通じて障害が設置・運営する「ふくろう」者の社会参加と自立を目指す共働作業所の開所式が、して活動されます。4月21日に市社会福祉センターには、入所生9人を始め職員や福祉関係者ら60人が出席し、施設長をつとめる林剛さんが「たくさん所は、精神障害者の方が通の方々のご理解と支援をい所できる市内で初めての共働作業所。障害者の福祉的就労や就業支援の場として多くの人に利用されると期待されています。入所生は「ふくろうで一番立派な紙をすきたい。1日目はやく自立ができるよふくろう」に併設。牛乳パックなどの古紙を利用した







